

はじめに

この本は、基礎日本語教科書『NEJ: A New Approach to Elementary Japanese —テーマで学ぶ基礎日本語—』（NEJと略称します）を活用して日本語指導をしようとしている人のための指導参考書です。

NEJはこれまでの日本語教科書とは大きく異なる教科書です。書名で「初級日本語」ではなく「基礎日本語」という言葉を使っているのもその表れです。また、「テーマで学ぶ」というのはこれまでの初級（基礎）日本語教育にはなかった考え方です。簡単に言うと、「**テーマを中心とした言語活動・学習活動**をしながら、**基礎的な日本語力を着実に身につける**」というのがNEJを活用した基礎日本語教育のコンセプトです。そして、より具体的には、従来の初級日本語教育の直接法による文型・文法積み上げ方式に対して、**自己表現活動中心のマスターテキスト・アプローチ**という新しい教育方法を提案しています。また、本書には、NEJのvol.1とvol.2の音声CD、イラスト集（イラストデータが入ったCD-R）が付属されています。こちらも積極的に活用して授業に役立ててください。

本書を参考にしていただき、NEJを活用して、学習者も指導者も楽しく充実した日本語の学習と教育が広く実現されることを願っています。

CONTENTS

■ NEJ[vol.1][vol.2]の構成 3 ■ NEJ[vol.1]の教育内容の概要 4 ■ NEJ[vol.2]の教育内容の概要 6

第1章 NEJの特長 8	第4章 各ユニットの内容と指導法 41
1 自己表現活動中心のカリキュラム 8	1 第1期：助走期 (Unit 1～Unit 7) 42
2 マスターテキスト・アプローチ 9	2 第2期：離陸期 (Unit 8～Unit 12) 52
3 日本語習得につながる活動を支援する指導者 11	3 第3期：拡張期 (Unit 13～Unit 18) 60
4 学習のための補助 11	4 第4期：発展期 (Unit 19～Unit 24) 69
5 各セクションの活動について 16	5 第5期：中級への橋渡し (Supplementary Unit) 75
6 文法事項について 17	
7 表記法について 18	
8 Supplementary Unit で扱っている文型、文法事項について 18	
第2章 ユニットの学習指導法 20	第5章 日本語学習指導一般について 81
1 ユニット学習に入る前に 20	1 教師の秘技(アート)から日本語教育のテクノロジーへ 81
2 ユニットの学習指導法 22	2 朗唱練習の重要性 81
3 その他の学習指導について 34	3 言語事項の学習から言葉遣いの学習へ 82
	4 対話原理 82
	■ 本の紹介 84
第3章 カリキュラム・プラン 36	第6章 [補足]追加的なマスターテキストの作成について 85
1 基礎日本語教育のカリキュラム 36	
2 既習者を対象としたカリキュラム 37	
3 時間が限られている個人指導の場合 38	
4 漢字系学習者と非漢字系学習者 39	
コラム① 自己表現活動について 19	資料1 The Gist of Japanese Grammar の日本語訳 88
コラム② 書き方の練習について 21	
コラム③ 口頭練習のときに学習者はなぜ教科書を見るのか 25	資料2 学習漢字リスト 106
コラム④ 漢字系学習者と非漢字系学習者 40	
コラム⑤ 日本語の発音方法の顕著な特徴・発音練習の指導について 45	資料3 イラスト索引 (付属イラスト集(CD-R)対応) 108
コラム⑥ ていませ-動詞について 51	■ イラスト一覧 110
コラム⑦ 活用や文の変換から間テキスト性へ 53	■ ユニット別リスト 120
コラム⑧ 非漢字系学習者の漢字学習の困難について 60	■ 文型別リスト 127
	■ 品詞別リスト 134
	■ カテゴリー別リスト 140
	■ 五十音順リスト 143
	資料4 「好きな言葉」記入例と用紙 150

NEJ [vol.1] [vol.2] の構成

vol. 1

本冊

- The Characters Appearing in the Textbook
- A Brief Introduction to the Japanese Language

■ Classroom and Daily Expressions

■ Unit 1 ~ Unit 6

Section 1 Personal Narratives [マスターテキスト]

Section 2 Questions and Answers

Section 3 Useful Expressions

- The Gist of Japanese Grammar
- Essay Writing

Section 4 Pronunciation Practice

Section 5 Review

■ Unit 7

Section 1 Conversations [マスターテキスト]

Section 2 Useful Expressions

- The Gist of Japanese Grammar
- Essay Writing

■ Unit 8 ~ Unit 12

▶ Unit 8, Unit 10 and Unit 11

Section 1 Personal Narratives [マスターテキスト]

Section 2 Useful Expressions

- The Gist of Japanese Grammar
- Essay Writing

Section 3 Additional Practice

Section 4 Verb Inflection

▶ Unit 9 and Unit 12

Section 1 Personal Narratives [マスターテキスト]

Section 2 Useful Expressions

- The Gist of Japanese Grammar
- Essay Writing

Section 3 Verb Inflection

-
- Appendix Table1, Table2 : Japanese syllables (written in the alphabet, hiragana and katakana)
日本語の音節(ローマ字、ひらがな、カタカナ)
Table3~Table7 : Adjective and verb inflections
形容詞と動詞の活用表
-

別冊

- Hiragana Writing Practice Sheets
- Katakana Writing Practice Sheets
- Writing Practice Sheets (※ Unit 1 から Unit 12 までの書き方練習シート)
- Grammar Practice Sheets (※ Unit 1 から Unit 12 までの文法練習シート)

vol. 2

本冊

■ Unit 13 ~ Unit 24

Section 1 Personal Narratives [マスターテキスト]

Section 2 Summary of the Main Grammar Points

- The Gist of Japanese Grammar
- Essay Writing

■ Supplementary Unit

Section 1 Personal Narratives [マスターテキスト]

Section 2 Summary of the Main Grammar Points

- The Gist of Japanese Grammar

-
- Appendix Table1~Table5 : Adjective and verb inflections
形容詞と動詞の活用表
-

別冊

- Writing Practice Sheets (※ Unit 13 から Unit 24 までの書き方練習シート)
- Grammar Practice Sheets (※ Unit 13 から Unit 24 までの文法練習シート)

■ N E J [vol.1]の教育内容の概要

注1：文型・文法事項の中で△はAdditional Practiceの事項。

注2：◇は活用形と活用表、※は留意点を示す。

タイトル	テーマ	トピック	語彙・表現	文型・文法事項	その他の文法事項と留意点	
Unit 1 Introducing Myself 自己紹介	自己紹介をする	名前、出身(国)、所属、身分	身分、所属、国、数字(100まで)	・～は、～です	・質疑応答で「学生ですか」「何年生ですか」「学部は?」「どこから来ましたか」「何さいですか」 ※「～から来ました」のみ動詞表現。	ひらがな・カタカナ
Unit 2 Introducing My Family 家族の紹介	家族を紹介する	家族、仕事、学校、年齢	家族、仕事、各種の学校、外国語、助数詞(人、さい)	・～は、～です ・親族呼称 ・人の数え方	・質疑応答で「何人ですか」「何をしていますか」「兄弟はいますか」	
Unit 3 My Favorite Things 好きな物・好きなこと	好きな物、好きなことを言う 好きな食べ物、スポーツ、音楽などを言う	朝ごはん、食べ物、飲み物、スポーツ、音楽	食べ物、飲み物、スポーツ、音楽、動詞(「食べる」、「飲む」など)、余暇の活動、頻度、同伴、数字、円、年、～のとき	・～は、～が好きです/(あまり)好きではありません ・～ます(嗜好や趣味に関わる動詞表現のみ)	・助詞(も、や) ・助詞的表現(といっしょに) ・質疑応答で「何を」「どんな～」「どうですか」「何が」「いつ」	日本語の音声
Unit 4 My Everyday Life わたしの一日	毎日の生活について話す	日常生活、朝・夜のこと、自宅で、学校で、仕事のあと	一日の時間帯、食事、日常生活の動詞、場所、活動、交通手段、食事、～の後、○時○分	・動詞文①(～ます)	・各種の格助詞(を、に、で、から、まで) ・助詞(か) ・質疑応答で「何時に」「何で」「どこで」「どのくらい」	
Unit 5 Friday Night 金曜日の夜	金曜日の夜の過ごし方について話す	料理、外食、友人との食事、デート(食事)	時と時間に関する表現(「～曜日」「先週」「今週」など)、外食関係の表現、食べ物、料理、食べ物屋、同伴者	・動詞文②(～ます/ました) ・形容詞①(「～い」「～な」の形と現在と過去)	・質疑応答で「だれといっしょに」「ほかは何を」 ※動詞文(～ます)と名詞文(～です)の現在・過去・肯定・否定の形を確認する。 ※「あります」「います」はここでは主要な学習事項とはしない。	
Unit 6 Going Out 外出	友人や家族などのお出かけについて話す	買い物、衣服、映画、デート(映画)	外出、衣料品、装飾品、日用雑貨、体の状態、「知っています」「知りません」など、位置詞(「中」「前」「横」など)	・～があります、～がいます ・～がありました、～がいました ・形容詞②(現在・過去・肯定・否定・接続の形)	・格助詞(を<離脱>) ・「～(し)に行きます」(目的をもった移動) ・質疑応答で「どうでしたか」	入門漢字(50字)

タイトル	テーマ	トピック	語彙・表現	文型・文法事項	その他の文法事項と留意点		
Unit 7 Invitations and Offers 誘う・すすめる・申し出る	人に物をすすめる 軽く誘う 誘う 積極的に誘う 申し出る	パーティーで、マレーシアのこと、紅茶、コーヒー	「どうして」と「なぜ」、「聞こえます」と「見えます」、～から、ここ(指示詞)、いつ、～し	<ul style="list-style-type: none"> 「～ます」の各種の形を使った表現 ～ますか(すすめる)、～ませんか(誘う)、～ましょうか(軽く誘う)、～ましょう(積極的に誘う)、～ましょうか(申し出る) ～より～の方が…(比較) 	<ul style="list-style-type: none"> 指示詞(こ・そ・あ・ど) 	入門漢字(50字)	
Unit 8 My Family わたしの家族	家族について話す	職業、性格、能力、特技、専攻、好きなこと	何をしているか、容姿や性格、能力や特技	<ul style="list-style-type: none"> ています-動詞(「会社を経営しています」など) 形容詞③(容姿や性格) △～ています(「テレビを見ています」など) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇動詞の種類とて-形 ※ Additional Practice (1)の動詞のみ。「会社を経営しています」などの表現は、ています-動詞として教える。 		基礎漢字(80字・累計130字)
Unit 9 What I Want to Do わたしのしたいこと	希望や望みを言う 何かをしたことがあるかどうか言う	行きたい場所、旅行、季節、登山、日本の文化、ほしい物	季節、気候、季節の楽しみ、～休み・お正月・クリスマスなど 日本の文化、ポップカルチャー(マンガ、アニメ、相撲、カラオケ)	<ul style="list-style-type: none"> ～たことがあります/～たがありません ～たいです/～たいと思っています 	<ul style="list-style-type: none"> ◇た-形 ※本ユニットで学習する動詞のみ 		
Unit 10 Rules and Directions きまり	指示や注意を与えるべきこととしてはいけなことを伝える 何かすることを頼む	山登りの注意、服装・持ち物の指示、禁止事項、授業のルール、態度	「着ます」「ぬぎます」「はきます」などの表現、連絡とコミュニケーションに関する表現	<ul style="list-style-type: none"> ～てください ～てもいいです/～てはいけません △～てください(「電気をつけてください」など) 	◇て-形のいろいろな使い方		
Unit 11 Busy Days and Hard Work いそがしい毎日とたいへんな仕事	義務や仕事を言う してはいけなことを言う	日常の雑事、一人暮らし、登録(授業登録)、先生の仕事	家事、手続き関係、先生の仕事	<ul style="list-style-type: none"> ～なければなりません △～ないでください(「授業は休まないでください」など) 	◇ない-形		
Unit 12 Things to Notice 気をつけること	望ましい行為を言う	いろいろな用事、忙しい日常、体調管理、日本の気象/気候(冬)、台風	冬に関すること、台風に関すること、気象に関すること、強弱	<ul style="list-style-type: none"> ～たほうがいいです/～たほうがいいと思います ～たり～たりします 	◇た-形		

■ N E J [vol.2]の教育内容の概要

注1：◇は活用形を示す。

タイトル	テーマ	トピック	語彙・表現	文型・文法事項	その他の文法事項
Unit 13 My Daily Life 毎日の生活	毎日の生活について順序立てて話す	日常生活、放課後、帰宅後、夜のこと	日常生活に関する語彙・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・～たら ・～てから ・～とき ・～ながら 	<ul style="list-style-type: none"> ◇て-形 ◇た-形 ◇ます-形 ・～て ・～だけ
Unit 14 My Recreation わたしの楽しみ	趣味、好きなことについて話す	読書、スポーツ、マンガ、音楽、映画、アニメ、山登り、写真	プライベートな時間の過ごし方に関する語彙・表現 (e.g. スポーツ、音楽)	<ul style="list-style-type: none"> ・～(する)こと/～(する)の 	<ul style="list-style-type: none"> ◇辞書形 ・それで
Unit 15 My Future わたしの将来	将来の希望、やりたいことについて話す	将来のこと、進学、就職、大学院、研究、仕事、結婚、家事・育児	将来に関する語彙・表現 (e.g. 専門、進学、就職)	<ul style="list-style-type: none"> ・～つもりです ・～と思います ・～だろうと思います/～んじゃないかと思います/～かもしれない/～かどうか(まだ)わかりません/～か～か、(まだ)決めていません 	<ul style="list-style-type: none"> ◇辞書形(普通形) ◇ない-形(普通形) ・名詞修飾節 ・～がほしいです ・～までに ・～でもいいです ・～たら ・～ている間 ・～後 ・まだ～ていません ・～(し)なくてもいいです ・～(し)ないで、～
Unit 16 Abilities and Special Talents できること・できないこと	自分のできることや、食べられるものについて話す	話せる言語、読める言語、書ける言語、好み、料理、食べられるもの、作れる料理	能力と特技に関する語彙・表現 (e.g. 外国語、料理)	<ul style="list-style-type: none"> ・可能表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・形容詞＋と思います ・～方 ・～(する)前 ・～ので ・～(する)ようになりました ・だから/ですから ・何でも ・自分で
Unit 17 Gifts プレゼント	あげたり、もらったたりしたプレゼントについて話す	誕生日、クリスマス、プレゼント、おこづかい、もらってうれしかったもの	プレゼントになる物の語彙・表現 (e.g. お祝いやイベントなどで贈る物)	<ul style="list-style-type: none"> ・授受表現 あげる、もらう、くれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・どれも
Unit 18 Support, Assistance, and Kindness 親切・手助け	親切にされたり、助けられたりしたことについて話す	家族や友人の手伝い、見送り、助けてもらったこと、親切にされたこと、教えてもらったこと、留学、海外出張	さまざまな親切に関する語彙・表現 (e.g. 留学や出張などの準備、手助け)	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞＋授受の表現① ～てもらおう、～てくれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・～(する)ために

基礎漢字(170字・累計300字)

タイトル	テーマ	トピック	語彙・表現	文型・文法事項	その他の文法事項
Unit 19 Visits 訪問	人から聞いた話や、自分が見たものについて話す	出張、知らない場所の情報、お見舞い、訪問、	さまざまな親切に関する語彙・表現 (e.g. 訪問先の様子、看病、手助け)	・動詞＋授受の表現 ② ～てあげる ・～そうです(伝聞) ・～そうです(様態)	・～で(原因・理由) ・「…」と言いました ・～てみる ・～という <input type="text"/>
Unit 20 Praises, Scoldings, and Requests I Got from Someone Else ほめられたこと・しかられたこと	ほめられたり、しかられたりした経験について話す	ほめられたこと、しかられたこと、頼まれたこと、しつけ、依頼、子どもの頃のこと、昔のこと	ほめられる・しかられる内容に関する語彙、頼まれる・誘われることに関する語彙・表現	・受身表現A (他者からの褒めや叱りや言語的な働きかけなどを受ける) ・～ように言われました	・～ばかり
Unit 21 Making or Allowing しつけ (1)	兄弟に対する厳しいしつけや、自分に対するしつけへの反抗について話す	しつけ、兄弟の話、させられたこと、させてもらえなかったこと、嫌いな食べ物、親が兄弟にさせたこと・させなかったこと、親が自分にさせようとしたが抵抗したこと	親が子どもに強要・許容することに関する語彙・表現 (e.g. 食事、学校の勉強、遊び、進学)	・使役表現 ・～(さ)せてくれました ・～(さ)せようと思いました ・～てほしい	・何も
Unit 22 Someone Forces/ Allows Me しつけ (2)	学校で受けた指導や、子どもの頃に親から受けたしつけについて話す	指導、しつけ、勉強、させられたこと、できるようになったこと	子どもが親に強要されることに関する語彙・表現 (e.g. 学校の勉強、家庭学習、食事)	・使役受身表現 ・～になりました (状態・能力・習慣の変化)	・～のおかげで
Unit 23 Miserable Experiences ひどい経験	大変な思いをした経験について話す	ひどい経験、残念だったこと、がっかりしたこと、疲れたこと	ひどい経験に関する語彙・表現 (e.g. 災い、被害、旅行でのアクシデント、不運なこと)	・受身表現B (他者からの物理的な行為を受ける) ・～てしまう ・～(する)と①(時)	・～ようです ・～(する)ことになりました ・すると ・そこ
Unit 24 Geography, Linguistics, and Climate 言語・地理・気候	自分の国のことについて話す	言語の成り立ち、言語の使用状況、地理、気候	地理・気候・言語的状况に関する語彙・表現	・受身表現C (物が主語の受身) ・～(する)と②(条件)	・～が(～で)一番～ ・～ても ・～しか(～ません)
Supplementary Unit Towards the Future 新しい世界	新しい挑戦について話す、過去を振り返りながら話す	サークルの勧誘、山登り、中学・高校の勉強、大学の勉強、大学生活での経験	山登り、勉強の仕方、大学生としての経験についての語彙・表現	・～(れ)ば ・疑問詞(+助詞)+～(れ)ばいいか	・～てあります ・～ておきます ・～よ ・～すぎる ・～のですか or ～んです ・～なさい ・～ようと思います ・～ようとしても ・～わけではありません ・～始める、～続ける

NEJは、従来の基礎(初級)日本語教材とは大きく異なる特徴を持っています。NEJを有効に活用していただくために、本章ではNEJの特長を紹介します。従来の初級日本語教育の内容と方法を熟知している方は、まず始めに第5章を読んでから本章にもどってください。そのほうが、従来の教育方法との対比でNEJの特長がよく理解できます。

1 自己表現活動中心のカリキュラム

- (1) 自分のことについてあれこれ話せるようになることを目標としてカリキュラムを作っています。
- (2) 各ユニットでは、自分のことについて話すテーマを設定しています。
- (3) 設定されたテーマの下に語彙や文型・文法事項などを学びます。そして、それらを使いながら自分の話をします。そして、一連のテーマの中で文型・文法事項を系統的に学習します。

(1) 自己表現活動中心のカリキュラムとは

これまでの初級日本語の教科書では、日本語の文型や文法事項(教育内容の概要(p.4-7)の「文型・文法事項」と「その他の文法事項」の欄にあるような事項)をそれぞれの課で勉強するという形で教科書が作られています。そのような教科書を使った教育は、どうしても日本語の文法の教育になってしまいます。そして、各課の勉強が終わったときには、その課の文型などを使って文を作ることができるにはなりますが、新たに何かが話せるようにはなかなかありません。

人が言葉を使うときは、必ず何かについて話します。特に、まだ親しくなっていない人同士の間では、親しくなっていく過程で各々のことをあれこれ話して、やがて「友だち」になっていきます。NEJでは、そのような「何かについて話す」ということを基礎日本語教育の柱にしました。そのようなカリキュラムを、従来の文型・文法事項積み上げ方式のカリキュラムに対し、自己表現活動中心のカリキュラムと呼びます。

(2) 自分のことについて話すテーマ

そのような方針に基づいて、NEJの各ユニットでは、自分のことについて話すテーマを設定しています。自分のことについて話すテーマというのは、例えば「好きな物・好きなこと」、「一日の生活」、「週末の過ごし方」、「わたしの家族」、「日本での経験」などです。NEJで具体的に扱うテーマについては、教育内容の概要(p.4-7)の「テーマ」の欄をご覧ください。

自分のことについて話すことについては、コラム1(p.19)で紹介しているヨーロッパ共通参照枠(CEFR)の能力記述でも取り上げられています。このように、いろいろなテーマについて順次話せるようになることは外国語能力発達の経路になるものです。NEJのカリキュラムはそのような経路をそのまま学習と学習指導の行程にしています。

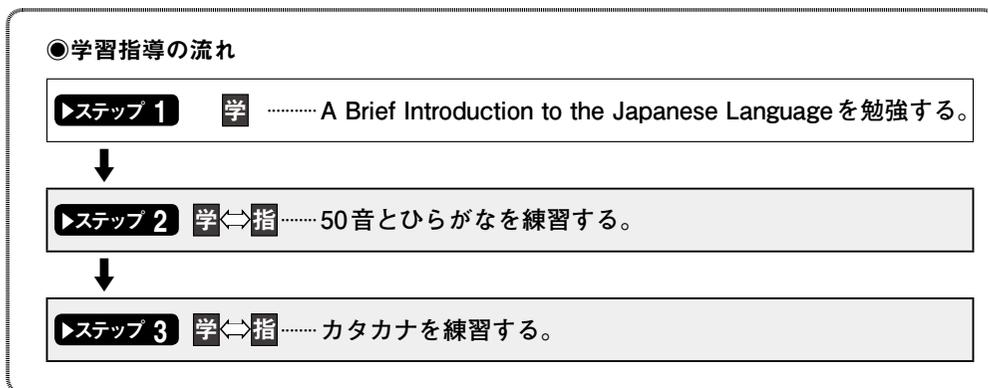
NEJは、日本語教育の経験や日本語指導法の研修の受講経験がない人でも割合容易に有効に活用することができます。一方で、経験のある教師の場合は、経験に基づく判断でさまざまな教え方の工夫や細かい即興的な対応や追加的な学習活動を行うことで、本書を活用してめざましい教育効果をあげることができるでしょう。

本章では、NEJを使った日本語指導の方法を初心の指導者にもわかりやすいように説明します。説明においては、端的に「～してください」という言い方をよく使っています。これはわかりやすさを優先してそのようにしているだけで、他の手順や方法を排除するものではありません。また、以下の説明ではしばしば「～してあげてください」や「～させてください」のような表現を使っていますが、指導者と学習者を上下関係で捉えているわけではありません。

※ **学**は学習者自身で勉強すること、**学**↔**指**は指導者の下で学習すること、**指**は指導者がすることをそれぞれ表します。**学**↔**指**がいわゆる指導の場面になりますので、枠内をグレーにしています。

1 ユニット学習に入る前に

日本語初習者の場合は、ユニットの学習に入る前に、日本語学習の準備をしなければなりません。ここでは、その方法について説明します。



▶ステップ1 **学** A Brief Introduction to the Japanese Language：日本語を知る
vol.1に掲載の「A Brief Introduction to the Japanese Language」(p.xviii-xix)を読んでもらってください。もちろん家庭学習でもかまいません。

▶ステップ2 **学**↔**指** 50音とひらがなの練習
別冊のひらがな練習シート(Hiragana Writing Practice Sheets)で、ひらがなの書き方と読み方を練習してください。その際には、付録(Appendix)のTable 1(日本

NEJは、対象学習者に合わせてひじょうに柔軟に活用することができます。また、従来の文型・文法積み上げ方式の教科書と比べると、各ユニットの独立性が高く、文型・文法事項についても既習か未習かをそれほど気にすることなくユニット学習を進めることができます。学習者の日本語習得状況に合わせて、上手に活用してください。以下では、いくつかのカリキュラム・プランを紹介します。

1 基礎日本語教育のカリキュラム

(1) 標準的なプラン

まずは、日本語初習者を対象とした標準的な基礎日本語カリキュラムの場合について説明します。

マスターテキストの分量は、ユニットによって異なります。それにより、1つのユニットの学習所用時間も若干変わります。以下が標準的なカリキュラムを策定するときの各ユニットの学習所要時間の目安です。

パート1	パート2	パート3	パート4	パート5
4～6時間	1時間	1時間	1時間	1時間

1ユニット……8～10時間

- ▶ 『NEJ』 vol.1(12ユニット) = 96～120時間
 vol.2(12ユニット) = 96～120時間
 vol.1 + vol.2(全24ユニット) = 192～240時間

上のように、パート5を含めて1ユニットを8～10時間で学習することとなります。カリキュラムとしては、NEJ vol.1の12ユニットで96時間から120時間、vol.1とvol.2の24ユニットで192時間から240時間となります。学習者の日本語学習適性や家庭学習の状況や学習の進捗状況などによって各ユニットの内容に習熟するために要する時間は異なりますが、**上の時間数が非漢字系学習者の場合の標準カリキュラムの目安**になります。このようにNEJを使った基礎日本語教育では、これまでの基礎(初級)日本語教育(約300時間)よりも短い時間で着実に日本語の基礎力(基礎的な文型・文法事項と語彙の知識と、それらを組み合わせた話し言葉と書き言葉の両モードの日本語運用能力)を養成することが期待できます。

日本語学校などでの集中日本語教育で専門的な教師が学習指導を行う場合は、各ユニットのマスターテキストの学習が終わった時点でマスターテキストの空所補充練習(助詞を空所にした練習と、

日本語の習得段階に応じて、教科書で学習者に提供すべき情報の内容は異なってきます。そのため、NEJの各ユニットの構成内容は、習得段階に応じて以下のように異なるものとなっています。

vol. 1

■ Unit 1 ~ Unit 6

Section 1 Personal Narratives [マスターテキスト]

Section 2 Questions and Answers

Section 3 Useful Expressions

○ The Gist of Japanese Grammar

○ Essay Writing

Section 4 Pronunciation Practice

Section 5 Review

■ Unit 7

Section 1 Conversations [マスターテキスト]

Section 2 Useful Expressions

○ The Gist of Japanese Grammar

○ Essay Writing

■ Unit 8 ~ Unit 12

▶ Unit 8, Unit 10 and Unit 11

Section 1 Personal Narratives [マスターテキスト]

Section 2 Useful Expressions

○ The Gist of Japanese Grammar

○ Essay Writing

Section 3 Additional Practice

Section 4 Verb Inflection

▶ Unit 9 and Unit 12

Section 1 Personal Narratives [マスターテキスト]

Section 2 Useful Expressions

○ The Gist of Japanese Grammar

○ Essay Writing

Section 3 Verb Inflection

vol. 2

■ Unit 13 ~ Unit 24

Section 1 Personal Narratives [マスターテキスト]

Section 2 Summary of the Main Grammar Points

○ The Gist of Japanese Grammar

○ Essay Writing

※ Unit 13 includes Review of the Basic Kanji

■ Supplementary Unit

Section 1 Personal Narratives [マスターテキスト]

Section 2 Summary of the Main Grammar Points

○ The Gist of Japanese Grammar

NEJでの日本語学習は、大きく4つの時期に分けることができます。「助走期」、「離陸期」、「拡張期」、「発展期」の4つです。以下では、各期ごとに、その期の概要と趣旨を説明した上で、各ユニットについて、指導上のポイントや留意点等を説明します。

NEJでは、Unit7以降の質疑応答練習が提示されていませんので、Unit7からUnit12までは質疑応答練習の冒頭部の例を紹介します。本章の見方は以下のとおりです。

◎指導上のポイント・☆留意点 「◎」が指導上のポイント、「☆」が指導上の留意点です。



学習指導を要領よくまた有効に進めるための工夫を書いています。

日本語のヒミツ

日本語教育経験者でもあまり知らないことで日本語を指導するに当たって知っておいてほしいことや、指導の指針の基礎となっている言語活動の現実についての認識などを書いています。

本章では、日本語の学習指導一般について NEJ の開発者として考えたことを少しお話したいと思います。

1 教師の秘技(アート)から日本語教育のテクノロジーへ

既存の初級日本語教科書はほとんどすべて文型・文法積み上げ方式で作成されています。そしてそのような本を教科書とした教育では、それぞれの文型・文法事項について「教科書を見せないで、直接法(媒介語を使用しないやり方)により、文型・文法事項の導入、練習、応用練習をする」ことが指導者に要求されます。そのような授業を有効に実施することは、初心の指導者や経験の浅い教師にはひじょうにむずかしいことです。つまり、従来の教科書とそれを使った教育では、長年の経験によって培われた教師の秘技(アート)によって教育が支えられている部分が大きいわけです。このような状況では質の高い日本語教育を広く提供することはできません。質の高い教育を広く提供するためには、カリキュラム・教材開発者が**習得すべき内容を指導者が扱いやすいように区分けして、かつ指導者が実際の学習指導において割合容易に有効に使うことができる資料=教材を用意しなければなりません。**これは教育のテクノロジー化です。NEJの開発は、そのような意味での**日本語教育のテクノロジー化**をめざしたものです。

ただし、そのようなテクノロジー化はシステムとリソースと若干の技量によって一定水準の教育の質を保障するだけでなく、指導者の技量の伸びによって一層有効な教育を可能にするものでなければなりません。NEJの開発にあたってはそうした面も考慮し、指導者の学習指

導のテクニックや学習活動のアイデアなどが洗練されると一層有効な教育を実施できるように配慮しました。この点については、再度 **4** で論じます。

2 朗唱練習の重要性

第二言語教育のテクノロジー化と言うと、60年代にもはやされたオーディオリンガル法を思い出す人も多いでしょう。オーディオリンガル法の教科書では主として、暗唱すべきダイアログと、文作りの操作を自動化するためのパターン・プラクティスの材料が提示されています。その一方で、詳細な語釈と文法説明も添えられています。指導者の役割は、ダイアログが暗唱できるまで徹底的に口頭練習(模倣記憶練習)をすることと、教科書の練習に準じてキューワードを次から次に出して学習者に該当する文を口頭で瞬時に言わせること(パターン・プラクティス)です。オーディオリンガル法は70年代に日本語教育でも関心を寄せられましたが、伝統的な直接法と相容れない部分が多いのであまり普及しませんでした。

NEJの開発者としては、パターン・プラクティスはあまり有効な指導法とは思いませんが、**口頭での模倣反復練習は基礎段階においてはきわめて重要な練習方法である**と思います。本書では、オーディオリンガル法の模倣記憶練習を部分的に修正した**朗唱練習**というものを提唱しました。**音声素材や指導者の読み上げを何度も模倣して反復練習をすることは初期の語学学習の基本中の基本**であると思います。また、NEJの**マスターテキストのような結束性の強い文章については暗唱**することも初期の言語習得にひじょうに有益であると思います。

NEJは、一般成人を対象とした基礎日本語教材です。そして、NEJのマスターテキストは、そのような学習者を念頭に置いて作成されています。具体的には、留学生およびその周辺の人たちが登場します。ですから、マスターテキストの登場人物に自分およびその周辺の人を重ね合わせることができるという意味で、留学生あるいは若い一般成人のための基礎日本語教材としてすばらしくフィットします。その他の学習者、例えば、南米からの日系人の方、技能実習生として日本に来ている若い人たち、日本人の配偶者の方、外国人看護師・介護福祉士候補者として来日した方などを対象とした基礎日本語教育でも、NEJは有効に活用することができます。しかし、一部のユニットについては、対象とする学習者集団向けの追加的なマスターテキストを作成して使用すると、一層有効に学習指導を行うことができると思われます。具体的には、Unit 8(わたしの家族)、Unit11(いそがしい毎日とたいへんな仕事)、Unit13(毎日の生活)、Unit15(わたしの将来)などです。

以下に、外国人看護師候補者を対象とした日本語教育の場合の追加的なマスターテキストの例を示します。Unit 8(わたしの家族)とUnit15(わたしの将来)で、登場人物はインドネシアのジャカルタから来たフィタさんとします。

1 作成の要領

追加的なマスターテキストを作成するためには、教育対象の学習者集団について、その背景も含めてよく知っていなければなりません。学習者集団についての知識に基づいて、プロトタイプ的な人物をできるだけ具体的に設定して、その人物について当該のユニットのテーマについてマスターテキストを作成するという手順になります。マスターテキストを作成するときは、ユニット間で事実関係のそごがないように作成してください。

2 ルビや注釈について

NEJのマスターテキストに準じて、ルビを振り、太字での強調(主要文法事項)や下線(追加文法事項)もつけてください。また、イラストなども添えるとよいでしょう。

このような独自のマスターテキストを作成することは、指導者が学習者やその背景に関心を持ちよく理解するためにも、ひじょうに役に立ちます。ぜひ、いっしょに日本語指導をしている仲間と、そのような作業をしてみてください。

NEJ : A New Approach to Elementary Japanese

— テーマで学ぶ基礎日本語 —

指導参考書

2012年10月30日 第1刷 発行

[著者] 西口光一

[発行] くろしお出版

〒113-0033 東京都文京区本郷3-21-10
Tel : 03・5684・3389 Fax : 03・5684・4762
URL : <http://www.9640.jp> Mail : kurosio@9640.jp

[印刷] シナノ書籍印刷

- 音声収録
VOICE- PRO
- 本文イラスト
須山奈津希
- 装丁デザイン
スズキアキヒロ

© 2012 Koichi Nishiguchi, Printed in Japan
ISBN 978-4-87424-563-7 C0081

乱丁・落丁はお取り替えいたします。本書の無断転載・複製を禁じます。